

受験番号

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（四十点）

この部分は
著作権の関係で
掲載出来ません。

受 験 番 号

問1 〰線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

a		c	
b		d	
		e	

問2 （A）（C）を補うのに、最も適当な語をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア むしろ イ だから ウ なぜなら エ たとえば オ しかし

A		B	
		C	

問3 〰線部①「里山」を筆者はどのようなところだと考えているか。文中から十字程度で抜き出しなさい。

問4 〰線部②「そこでは人と自然が共に生きているのではない」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人間が自然にいろいろ働きかけたにもかかわらず、もともとの自然の美しさは保たれているということ。
- イ 人間が自然に手を加え、自然がそれにより失ったものを取り戻そうとすることが繰り返されるとのこと。
- ウ 人間が自然を思うように作り替え、最終的に人間にとって親しみと安らぎをおぼえる場所にしたということ。
- エ 人間が自然に配慮してその美しさを残そうと努力しても、結局は自然にとって害にしかならないということ。

問5 〰線部③「奇妙なこと」とあるが、どのようなことを「奇妙」だと考えているのか。五十字以内で説明しなさい。

問6 〰線部④「これ」の指示内容を文中の語句を用いて十五字以内で答えなさい。

問7 〰線部⑤「どうやら人間は、何か両極端の間をさま迷っているのではないか？」とあるが、「両極端の間をさま迷っている」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人間は徹底した人工を求めて不安を感じ、逆に徹底した自然を求めようとするが、どちらにも落ち着けないということ。
- イ 人間は徹底した自然と徹底した人工を求めあまり、美しさにも便利さにも価値を見いだせなくなっているということ。
- ウ 人間は人工物を徹底的に発達させたために自然が減ってしまうのではないかと極端に心配になっているということ。
- エ 人間は人工物の便利さに慣れすぎてしまい、人間が管理できない自然に対して過度の恐れを抱いているということ。

問8 〰線部⑥「里山は、これとはかなり異なっている」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 里山は、利便性を求めたがゆえに安全性を損なった人工的環境とは異なり、適度の危険と便利さを備えているということ。
- イ 里山は、自然と共存するために計画的に作られた人工的環境とは異なり、自然の本来の姿をそのまま味わえるということ。
- ウ 里山は、便利だが予期しない危険の多い人工的環境とは異なり、不便だが危険を予測でき人を穏やかにさせるということ。
- エ 里山は、人間にとって快適な自然だけを取り入れた人工的環境とは異なり、自然が危険なことを教えてくれるということ。

問9 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自然とは人間にとって恐ろしいものであるのに、人々は里山が自然であることを忘れて親しみを感じている。
- イ 現実の里山は決して自然そのものではないが、映像の中の里山は本来の意味での美しい自然だと言えることができる。
- ウ もともと里山は何もしなくても美しいものであるが、人間はそれを楽しむとして逆に里山の魅力を奪っている。
- エ 人工物にあふれた環境の中に生きる人間にとって、自然と人工の中間的存在である里山は心安らぐ場所である。

受験番号

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（四十点）

この部分は、
著作権の関係で
掲載出来ません。

受験番号

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（二十点）

今は昔、^{※1}唐の辺州に一人の男あり。家貧しくて宝なし。妻子を養ふに力なし。^{※2}求むれども得る事なし。かくて歳月を^{※3}経。思ひわびて、ある僧にあひて、宝を得べき事を問ふ。智恵ある僧にて、答ふるやう、「汝^{※4}宝を得んと思はば、ただ誠の心を起すべし。さらば宝もゆたかに^{※5}後世はよき所に生れなん」といふ。この人、「誠の心とはいかが」と問へば、僧の曰く、「誠の心を起すといふは、他の事にあらず。仏法を信ずるなり」といふに、また問ひて曰く、「それはいかに。たしかに承りて心を得て、頼み思ひて、二なく信をなし、頼み申さん。承るべし」といへば、僧の曰く、「我が心はこれ仏なり。我が心を離れては仏なしと。しかれば我が心の故に仏はいますなり」といへば、手を摺りて泣く泣く拝みて、それよりこの事を心にかけて夜昼思ひければ、梵^{※7}釈^{※8}諸^{※9}天^{※10}来たりて守り給ひければ、はからざるに^①出で来て、家の内ゆたかになりぬ。命終るに、いよいよ心、仏を念じ入りて、浄土にすみやかに参りてけり。この事^⑦を聞き見る人、貴みあはれみけるとなん。

〔宇治拾遺物語〕

- ※1 唐の辺州：中国の辺境の地
- ※2 思ひわびて：思い悩んだ末
- ※3 さらに：そうすれば
- ※4 後世：死後の世界
- ※5 承りて：お聞きして
- ※6 二なく信をなし、頼み申さん：他の事に心向けず信心をしておすがりいたしましたしよう
- ※7 梵釈諸天：仏法の守護神
- ※8 はからざるに：思いも寄らず
- ※9 念じ入りて：一心に思つて
- ※10 浄土：極楽浄土

問1 線部Ⅰ「いふ」Ⅱ「問ひ」の主語として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 男
 - イ 妻子
 - ウ 僧
 - エ 梵釈諸天
 - オ 聞き見る人
- | |
|----|
| I |
| II |

問2 線部①「求むれども得る事なし」④「誠の心とはいかが」の意味として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

- ① ア 結婚相手を見つけたかったが良い人はいなかった
 - イ 財産を得ようとしたが手に入らなかった
 - ウ 行方不明の妻子を探したが見つからなかった
 - エ なくした宝を搜索したがどこにもなかった
- ④ ア 誠の心を差し上げましょうか
 - イ 誠の心はどこにあるのですか
 - ウ 誠の心を手に入れたいですか
 - エ 誠の心はどういうものですか
- | |
|---|
| ① |
| ④ |

問3 線部②「誠の心を起す」とはどうすることか。十字以内で答えなさい。

問4 線部③「よき所」とは具体的にどこか。文中から二字で抜き出さない。

問5 線部⑤「承るべし」とは「お教えいただきたい」という意味であるが、何を教えてほしいと言っているのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 財宝の埋まっている場所
 - イ 守護神に出会うための方法
 - ウ 妻子がいま住んでいる場所
 - エ 信心してすぐるための方法
- | |
|-------|
| ----- |
|-------|

問6 線部⑥「我が心はこれ仏なり」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人の言うことを素直に聞くことができる心を持つてば、仏になれるということ。
 - イ そもそも仏などというものは存在せず、自分の心で作上げた幻想だということ。
 - ウ 仏について思うことで、心の中に仏が生まれて信じていることができるということ。
 - エ 毎日念仏を唱えて修行をしていくと、自分のように仏の心を持つてるということ。
- | |
|-------|
| ----- |
|-------|

問7 に当てはまる語を文中から抜き出さない。

問8 線部⑦「聞き見る人、貴みあはれみける」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 男が僧の言うことを信じて実践した結果、願いがかなえられたから。
 - イ 何度も質問する男に対しても、丁寧に答える僧の徳の深さが伝わったから。
 - ウ 男の尋ねる難しい問いに対して、常に僧が的確な答えを返したから。
 - エ 男が家族を幸せにするために、最期まで慎ましやかな生活を送ったから。
- | |
|-------|
| ----- |
|-------|

問9 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 妻を得るためにはどうしてもお金が必要だと考えた男は僧に相談した。
 - イ 徳の高い僧は、欲深い男に何とかしてその欲を捨てさせようとした。
 - ウ 男は毎日泣きながら、自分を金持ちにしてほしいと仏にお願いした。
 - エ 男が仏のことをずっと思い祈ったので、守護神の力で幸せになった。
- | |
|-------|
| ----- |
|-------|